



MINATO TOKYO

# Bulletin

みなと  
ユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY/MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004/MITSUKO TAKAI PRES.  
発行所/港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03 (3434) 2233 発行人/高井光子

2014年12月1日発行 第138号

目次	
P1 巻頭言「ユネスコ精神と『持続可能な社会』の構築」 木曾功氏	P18-21 MUA サロン「鳥の目、虫の目で見える世界」 佐藤修平さん
P2-6 講演会「これからの世界と日本」榊原英資氏	P5-21 みなと区民まつり
P7-17 UNESCO ユースフォーラム in みなと 2014	P22 事務局便り / 編集後記

## ユネスコ精神と「持続可能な社会」の構築

港ユネスコ協会相談役 木曾 功



について考えてみたい。

私が、七年前、日本ユネスコ国内委員会の事務総長になった時、ユネスコ活動の活性化をどう図っていくのかという課題が、さかんに議論されていた。各地のユネスコ協会のメンバーの高齢化と、若いメンバーの参加が減ってくるという事態にどのように対処すべきなのか？ 実際に、小学校・中学校等で子ども達と話しをしてみれば分かるが、残念ながら今の子ども達にとって、平和は「あたり前のこと」であり、平和の尊さは、抽象的かつ「何か遠い価値」でしかないと思われる。

世界で、いまだに紛争が続いているが、テレビ等で見る「遠い世界」のことと考えているようである。

一方で、気候温暖化の問題をはじめ、地球環境の悪化に関しては、非常に関心をもっていることが分かる。

ユネスコが取り組んでいる「ESD」（持続的開発のための教育）が、もっと日本の教育現場で推進される可能性があるのではないかと考えた。

そして、この切り口でユネスコ精神と活動の活性化が図れるのではないかと考え、ユネスコ・スクール 500 校計画と、そのユネスコ・スクールが、「ESD」（持続的開発のための教育）の地域の拠点として活動することを期待した。

現在、我が国のユネスコ・スクールは、800 校を越え、増加中である。

私は、世界の「平和」を維持するには、地球社会が「持続可能な社会」となることが大前提と考えている。方向性は同一であり、「ESD」が新しいユネスコ活動の一つの柱になることを期待している。

(内閣官房参与 前ユネスコ代表部大使)